

**「第10回運動免疫学研究会」・「第32回筋肉の会」の共同開催と  
「第32回筋電図の会」のご案内（第2報）**

**「筋肉の会・運動免疫学研究会共同研究会」**

**日 時：**平成27年9月18日(金)  
第70回日本体力医学会大会1日目  
17:30~19:30の予定

**会 場：**大会会場において調整中

**演 題：**

1. 松生 香里 先生  
(東北大学大学院医学系研究科行動医学分野)  
「運動・ストレスにおける腸管防御機構と骨格筋  
修復・肥大に関する研究 - 腸内細菌の役割に着目  
して -」
2. 黒坂 光寿 先生  
(聖マリアンナ医科大学医学部生理学教室)  
「骨格筋におけるTRPチャネルの役割」

**参加費：**1,000円(事務連絡費, 会場費, AV機材借用費等)  
研究会の当日, 受付にて申し受けます。

**世話人：**

「運動免疫学研究会」

奥津 光晴  
(名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科)  
〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1  
TEL: 052-872-5837  
e-mail: okutsu@nsc.nagoya-cu.ac.jp

「筋肉の会」

山内 秀樹  
(東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室)  
〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1  
TEL: 03-3430-8686 (2445) FAX: 03-3480-4591  
e-mail: yamauchi@jikei.ac.jp

**「筋電図の会」**

**日 時：**平成27年9月18日(金)  
第70回日本体力医学会大会1日目  
17:30~19:30の予定

**会 場：**大会会場において調整中

**演 題：**

1. 小宮山 伴与志 先生  
(千葉大学教育学部保健体育教室)  
「末梢から中枢を観察する - 筋電図の魅力 -」
2. 西村 幸男 先生 (生理学研究所)  
「筋活動は誰が制御しているのか? 皮質vs体性感覚」
3. 加茂 美冬 先生 (日本女子体育大学体育学部)  
「筋が受け取る神経系からの指令 - 運動単位の放電 -」
4. 森本 茂 先生 (横浜国立大学)  
「表面誘導単一運動単位活動電位からの“表面筋  
電位波形”および“単一運動単位筋振動信号”の  
理解に向けて」

**参加費：**1,000円(事務連絡費, 会場費, AV機材借用費等)  
研究会の当日, 受付にて申し受けます。

**世話人：**

小宮山 伴与志 (千葉大学教育学部保健体育教室)  
〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33  
TEL: 043-290-2621 FAX: 043-290-2519  
e-mail: komiyama@faculty.chiba-u.jp

## 公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成27年度研究助成および海外留学助成等の交付対象者募集

### 1. 研究助成募集要項

- (1) 助成対象課題－生命科学，特に健康の増進，疾病の予防および治療に関する次の諸分野の研究
  - (イ) 東洋医学，体力医学，社会医学，栄養学，薬学一般
  - (ロ) 基礎医学（上記以外）
  - (ハ) 臨床医学（上記以外）
- (2) 助成対象者－上記研究に意欲的に従事する日本在住の研究者で「3. 応募方法その他（2）推薦者」の推薦を受けた者  
 （注）研究推進特別奨励金は，医学部（大学院医学研究科）と薬学部（大学院薬学研究科）に限る
- (3) 助成の種類および金額
  - (イ) 研究助成金
    - ◇年齢不問，単独研究でも共同研究でもよい
    - ◇1件500万円，助成件数90件
  - (ロ) 研究奨励金
    - ◇若手研究者で昭和53年4月1日以降出生の者，但し医学部等6年制の学部卒業者は昭和51年4月1日以降出生の者
    - ◇1件200万円，助成件数90件
  - (ハ) 研究推進特別奨励金
    - ◇医学部（大学院医学研究科）または薬学部（大学院薬学研究科）において平成25年4月以降に独立した研究室またはチームを立ち上げた，昭和45年4月1日以降出生の日本在住の教授（特任教授，准教授は除く）
    - ◇1件400万円，助成件数10件
- (4) 助成金の使途－研究に要する物品の購入その他研究推進に必要な費用とする

### 2. 海外留学助成（上原フェローシップ）募集要項

- (1) 助成対象者－研究助成と同じ課題の研究を行う研究者で次の条件を満たす者
  - (イ) 研究助成と同様に「3. 応募方法その他（2）推薦者」の推薦を受けた者
  - (ロ) 原則として平成28年1月1日～12月31日の間に新たに海外留学に出立する者  
 但し，事情によっては年内に出立する者および海外留学中の者（条件あり）も対象とする
  - (ハ) 1年間以上の海外留学を受け入れる大学等学術研究機関が決定している者
- (2) 助成の種類及び金額
  - (イ) リサーチフェローシップ
    - ◇研究奨励金と同じ年齢要件を満たす若手研究者
    - ◇博士号を有するか，またはそれと同等以上の研究業績を有する者
    - ◇1件400万円以内，助成件数約80件
  - (ロ) ポストドクトラルフェローシップ
    - ◇昭和57年4月1日以降出生の者，但し医学部等6年制の学部卒業者は昭和55年4月1日以降出生の者
    - ◇助成期間中無収入の者
    - ◇博士号を有するか，または平成28年4月までに取得見込の者
    - ◇1件400万円以内，助成件数約40件

尚，海外留学助成（イ）（ロ）の選考段階での成績優秀者（若干名）に対し，2年間の助成を行う

### 3. 応募方法その他（研究助成および海外留学助成共通）

※研究推進特別奨励金のみ推薦者が異なる

- (1) 応募方法－当財団ホームページの手順に従い応募する
- (2) 推薦者－
  - (イ) 大学関係
    - 総合大学：大学院研究科長（または学部長）<sup>(注1)</sup>
    - 単科大学：学長
    - 財団理事会が承認した大学附置研究所等：代表責任者
    - 大学共通組織<sup>(注2)</sup>（研究センター，研究施設等）：学長
    - （注1）薬学研究科，薬学部等同一の研究科，学部の場合はいずれか1件の推薦とする
    - （注2）原則研究センター長，施設長および病院長は推薦者となることできない
  - (ロ) 大学以外の研究機関：
    - 当財団理事会が承認した研究機関の代表責任者
    - ※研究推進特別奨励金：大学長（1大学1件の推薦とする）
- (3) 応募期間－平成27年6月10日～平成27年9月4日
- (4) 選考方法－当財団選考委員会において選考し，理事会で決定する
- (5) 採否の通知－平成27年12月中旬に採択者をホームページに掲載の上，採択通知を郵送する
- (6) 助成金の交付－平成28年1～3月の間に贈呈する

### 4. その他の助成金

#### (イ) 来日研究生助成金

◇わが国の大学院の博士課程（前期/後期）に入学するために来日し，あるいは既に在籍して，生命科学，特に健康の増進，疾病の予防および治療に関する研究を行う研究者で次の条件をいずれも満たす者（申請時点で大学院入試を受験していない者および合否が未定の者でも応募可とするが不合格となった場合は当財団へ申請取り下げの連絡が必要）

- (1) 日本以外の国籍を有する者
- (2) 他の奨学金，助成金を受けていない者
- (3) 1年以上の研究を行う者
- (4) 英語検定（TOEIC，TOEFL）または日本語検定を受検した者

◇月額15万円（助成期間は2年以内）助成件数10件

◇応募期間－平成27年6月10日～平成27年9月4日

◇推薦者－大学長（1大学1件の推薦とする）

※応募方法，選考方法，採否の通知については上記「3. 応募方法その他」と同じ

#### (ロ) 国際シンポジウム開催助成金

◇わが国で開催される国際的な研究集会に対する助成

◇応募期間－平成27年6月10日～平成27年9月30日

※詳しくは当財団ホームページをご覧ください

### 5. 申請書提出先および連絡先

〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目26番3号

公益財団法人 上原記念生命科学財団

TEL: 03-3985-3500, 8400 FAX: 03-3982-5613

E-mail: mail85@ueharazaidan.or.jp

Homepage: <http://www.ueharazaidan.or.jp>

## 第58回自動制御連合講演会（神戸）

**主催：**システム制御情報学会（幹事学会）、計測自動制御学会、日本機械学会、化学工学会、精密工学会、電気学会、日本航空宇宙学会

**共催：**神戸大学工学研究科・システム情報学研究科協賛学協会（依頼予定・依頼中を含む）：

映像情報メディア学会、応用物理学会、可視化情報学会、画像電子学会、環境システム計測制御学会、計装研究会、自動車技術会、照明学会、信号処理学会、人工知能学会、石油学会、センシング技術応用研究会、電子情報通信学会、土木学会、日本応用数学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本感性工学会、日本経営工学会、日本原子力学会、日本建築学会、日本行動計量学会、日本磁気学会、日本シミュレーション学会、日本神経回路学会、日本神経科学学会、日本生産管理学会、日本生体医工学会、日本生物環境工学会、日本生物物理学会、日本設計工学会、日本繊維機械学会、日本船舶海洋工学会、日本体力医学会、日本知能情報ファジィ学会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本人間工学会、日本熱物性学会、日本熱測定学会、日本バーチャルリアリティ学会、日本非破壊検査協会、日本フルードパワーシステム学会、日本マリンエンジニアリング学会、日本リモートセンシング学会、日本ロボット学会、農業機械学会、バイオメカニズム学会、パワーエレクトロニクス学会、ヒューマンインタフェース学会、IEEE Control Systems Society Japan Chapter、IEEE Control Systems Society Kansai Chapter、Geoscience and Remote Sensing Society IEEE Japan Council、IEEE Circuits and Systems Society Kansai Chapter

**後援（依頼予定）：**日本学術会議

**期日：**2015年11月14日（土）、15日（日）

**場所：**神戸大学六甲台キャンパス工学部教室棟（神戸市灘区六甲台町1-1）

**募集分野：**制御、計測、システム、情報、デザイン、解析、経営、数理等とその関連分野での最新の研究で、学術的な研究または実システムへの応用研究等が望まれます。

**講演時間と講演論文原稿：**

一般セッションの発表時間は1件15分（質疑応答を含む）の予定です。オーガナイズドセッションでの発表時間は、オーガナイザに一任いたします。講演論文原稿はいずれもA4判2～8頁（ただし、ファイルサイズ2MB以内）で、日本語・英語が可能です。

**講演申込期間：**7月6日（月）（予定）～8月3日（月）

講演申込は、HPからのオンライン申込となります。

**原稿提出締切：**9月18日（金）

（投稿受付開始は8月20日頃開始予定）  
原稿は、HPからPDFファイルのアップロードとなります。執筆要項などの詳細については、HPに記載予定です。

**講演会HP：**<http://www.iscie.or.jp/rengo2015/>

**参加費：**近日中に決定する予定です。

**講演論文集（CD-ROM、プログラム冊子）代：**

近日中に決定する予定です。

**懇親会：**11月14日（土）夕刻（予定）

懇親会費は近日中に決定する予定です。

**問合せ先：**〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学大学院工学研究科機械工学専攻  
設計生産講座 複雑系機械工学研究室気付  
第58回自動制御連合講演会事務局

E-mail: rengo58@isice.or.jp

**実行委員長：**横小路 泰義（神戸大学大学院工学研究科教授）

E-mail: yokokohji@mech.kobe-u.ac.jp

## 編 集 後 記

本号には原著論文7つに加えて、ミトコンドリアに関する総説、サルコペニアに関する教育講座もあり、タイムリーで盛りだくさんな充実した内容となっていると思います。学会大会でも発表演題数が多いですし、この分野がますます発展していること、またそのことに本誌の貢献が何えて嬉しいことと思います。一方4巻目に入っている本会の英文誌については、総説の充実で救われてはいますが、原著論文の数ではもう少しの状況というのが率直なところであるかと思えます。日本語で書くことも大事ですが、英文誌へさらなる皆様の積極的な投稿をお願いしたいと思います。そうやってこそ日本におけるこの分野の本当の発展と言えるのではないかと思います。

最近の論文発表に関することで私が思い浮かぶのは、電子ジャーナルを中心としたジャーナル数の過度の増大と、大手出版社による購読費の異常な高騰です。電子ジャーナルができて、安く早く出版されるというのは、一見よいことばかりのようですが、実態は必ずしも望ましいだけでなく、問題点も多いようにも思っています。早く出版するために査読者には査読を短くする無理が来ているし、内容が悪くても十分な査読を経ないことがあるように見受けられます。一人の査読者が却下と判定しても、さらに別の査読者に依頼することもなく、改訂さ

れることがよくあるように思います。また毎週どころか毎日と言ってもよいほど、出版社からこのジャーナルはオープンジャーナルで投稿料はかからず査読も早いから投稿してくれ、といったメールが送られてくる現状は、やはりおかしいと思います。

また大手出版社のパッケージ電子ジャーナル講読料がどんどんあがり、大学予算を圧迫しています。私のところでも教室予算の3分の1以上を図書費に使わないといけなような状況になってしまっています。多くの大学で、図書費の高騰も大きな原因の1つとなっていていろいろなことが立ちいかなくなっていると思われます。このようなオープンジャーナルの増加と、図書費の高騰は日本全体どころか、世界全体の科学の発展についての大問題ではないでしょうか。そこでどうするべきかと考えると、少し手前味噌ですがこの体力科学のように、学会や組織が後ろにあってしっかり査読されるジャーナルを大事にすることに尽きると思います。投稿論文の査読を先生方に依頼するのは心苦しいものですが、忙しいという理由で査読が断られるのも楽しいものではありません。ぜひ皆様のご協力をよろしくお願いします。

八田 秀雄

---

### The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.64, No.4

---

#### 体 力 科 学 第 64 卷 第 4 号

平成 27 年 7 月 25 日 印 刷

平成 27 年 8 月 1 日 発 行

編集兼発行者	鈴木 政 登
発 行 所	一般社団法人日本体力医学会 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 学会支援機構内 TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012 E-mail : jspfsm@asas.or.jp
編 集 事 務 局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120 E-mail : hj-tairyoku@turui.co.jp
印 刷 所	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社

---